

2022（令和4）年度
教職課程
自己点検評価報告書
（20230320 決定版）

2023（令和5）年3月
天使大学 看護栄養学部

天使大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・看護栄養学部・栄養学科

大学としての全体評価

本学は、キリスト教の精神に基づくカトリック大学として「愛をとおして真理へ」を建学の精神」にしている。教職課程における運営等の理念・活動は、本学の教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づくとともに、教員としての資質・能力の向上を図ることを目的として実施されている。

本学における2022年（令和4年）度の教職課程自己点検評価は、3つの基準領域（基準領域1：教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み、基準領域2：学生の確保・育成・キャリア支援、基準領域3：適切な教職課程カリキュラム）とも適切に運営・実施されていると評価した。

また、本学においては、教職課程の内部質保証の観点から2019年度より「自己点検・評価（学生用・教職員用）」を実施しており、その結果は、4年間にわたり学長に報告されるとともに、ホームページにも公表してきた。この内容からも、学生の資質向上が明確になるとともに、教職員が意欲的に教職課程の指導・運営に取り組んでいることも明らかになっている。

なお、今後の改善に向けては、学生に教職課程の魅力を十分に伝えるとともに、4年間実施してきた学生及び教職員の「自己点検・評価票」の見直しを行い、更なる内部質保証の改善・充実に努めることが重要と考えている。

天 使 大 学

学 長 田 畑 邦 治

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	5
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	5
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	9
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	13
III	総合評価	18
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	18
V	「現況基礎データ一覧」	19

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：天使大学看護栄養学部
- (2) 所在地：北海道札幌市東区北13条東3丁目1番30号
- (3) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数：教職課程履修53名／学部全体769名／栄養学科全体366名

教員数：教職課程科目担当（教職・教科とも）15名／

学部全体61名（専任・嘱託・特任）

2 特色

本学の教職課程は、看護栄養学部栄養学科の学生を対象にして、「栄養教諭一種免許状」の取得を目指している。この「栄養教諭一種免許状」取得のために、本学の「卒業認定・学位授与方針」（ディプロマ・ポリシー）とも連動した教職課程の目標と教育課程編成・実施の方針を掲げている（(1) (2) 参照）。

また、本学は栄養学科の学生を対象にした少人数の教職課程であり、運営組織としては、教職課程委員会が、その運営を担っている。教職課程の内部質保証に関しては、2019年度より教務委員会規程を改定して、内部質保証に係る自己点検・評価の実施、公表及び報告に関する事項と、内部質保証に係るFD研修会等の研修の実施に関する事項を追加して、この4年間、着実に業務を推進している（(3) 参照）。

さらに、栄養教育実習以外にも、小学校3校における学校インターンシップ（2年次生・夏季休業中1週間の課外活動）の実施、授業内外における「北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場」と連携した農業体験実習（1年次生）、授業内における「サッポロさとらんど」における栄養教育に係る発表・展示（3年次生）など、外部と連携した教育の充実に努めている（(4) 参照）。

(1) 教職課程の目標

天使大学は「愛をとおして真理へ」を建学の精神とするカトリック大学であり、看護栄養学部栄養学科では、栄養学を基盤とし、食を通して生活へのサポートを自律して実践できる人間性豊かな専門職業人を育成することを教育目的として人材育成を行っている。

栄養教諭一種免許状の取得を目指す本学教職課程においては、建学の精神や教育目的を基盤とする人間性豊かな栄養学の専門性の高い人材育成とともに、総合的人間力と実践的指導力など資質能力の高い教員を養成するため、次の目標を掲げている。

【目標】

1. 人間愛、思考力・判断力、社会変化への対応力などの基礎となる幅広い教養を身に付けることができる。
2. 使命感、責任感、教育的愛情など教員としての基本的資質と高い倫理観を身に付けることができる。
3. 子ども理解や指導法など学校教育の理論・実践の基礎となる知識・技能を身に付けることができる。
4. 食の指導についての高度な専門性と高い実践的指導力を身に付けることができる。
5. 栄養管理・衛生管理を徹底し、安全でおいしい給食を提供する能力を身に付けることができる。
6. 高いコミュニケーション能力を身に付け、同僚や地域・家庭・関係機関と組織的に連携・協働して課題解決を図ることができる。
7. ボランティア活動や体験活動に積極的に参加するなど、社会貢献の意欲と行動力を身に付けることができる。
8. 向上心を持って専門性を高め指導方法を改善するなど、自律的に学び続ける意欲を身に付けることができる。

(2) 教育課程編成・実施の方針

1. 教育課程の編成・実施

- 1) 教職課程の目標を達成できるよう、科目内容や順序性に配慮して教育課程を編成・実施する。
- 2) 課外における体験活動やインターンシップ、ボランティア活動への参加を奨励する。

2. 学修方法および学修成果の評価方法

1) 学修方法

- ・授業は、講義、演習、実習実技に区分される。講義では1単位で90分授業が8回、2単位では15回実施される。演習や実技実習では、1回の時間が講義より増加するが、詳しくは「教職課程履修の手引」で説明・周知している。
- ・授業における学生の学修方法としては、主体的・能動的に取り組むことを重要としており、さらに、1回の授業に対して、前後1～2時間の授業外学修（予習・準備や復習等）を課している。

2) 学修成果の評価方法

- ・学修成果の評価は、各科目の担当教員が責任を持って行う。評価方法としては、授業目標等が達成できたかどうかを、試験、レポート、発表、提出物、受講態度などの項目で総合

的に判定するが、具体的には、各科目のシラバスに記述するとともに、講義の最初に時間に担当教員が説明・周知している。

- ・学修成果は、科目ごとにA、B、C、D、F、H、Nで評価され、A、B、C、Dが合格点となり、単位を取得できる。学生には「履修要項」を配布し説明している。
- ・栄養教諭一種免許状取得のためには、栄養学科の卒業条件を満たすとともに、必修の教職課程科目すべてを履修・修得することが必要となる。詳細は「教職課程履修の手引」に明示するとともに、説明も行っている。

(3) 教職課程の内部質保証に係る取り組み

2019年度から4年間、以下の規程にある第2条(2)、(3)及び第7条の内容を着実に実施しており、内部質保証の充実を図っている。

<教職課程委員会規程より抜粋>

第2条 委員会は、次の教職課程に関する事項を審議し、これに関連する必要な業務を行う。

(2) 教職課程の内部質保証に係る自己点検・評価の実施、公表及び報告に関する事項

(3) 教職課程の内部質保証に係るFD研修会等の研修の実施に関する事項

第7条 教職課程委員会は教職課程科目を担当する専任教員、非常勤講師及び教職課程に関わる職員による自己点検・評価を総合的に評価し、その結果を学長に報告しなければならない。

2 教職課程に関する科目を担当する専任教員、非常勤講師及び教職課程に関わる職員は、特段の理由がない限りFD研修会等の研修に参加することとする。

(4) 外部と連携した教育の充実

1. 「北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場」における農業体験実習
この農場実習は、北海道大学が他大学の学生を受け入れることの必要性和、本学の学生が農業や食育の原料である農作物について学ぶことを目的として、1年次生対象に2012年度より実施している。この実習もコロナ感染症の影響で2020、2021年度と中止となったが、2022年度から復活した。2022年度の実習内容は、果樹の収穫体験（教職概論の授業内）と搾乳体験（夏季休業中の課外）であった。学生は、これらの活動を初めて体験する者がほとんどで、大きな感動とともに、農業についての認識や理解をしっかりと深めることができた。また、2023年度からは、田植えや稲刈り体験等（土曜日等の課外）も復活する。
なお、連携協定は敢えて結ばずに、農場長と本学の担当者で日程調整している。

2. 小学校における学校インターンシップ

学校インターンシップは、近隣の札幌市立小学校3校と連携して、2012年度より実施して

おり、2年次生対象で夏季休業中1週間の課外活動である。2020年度は、コロナ感染症の影響で中止となったが、2021年度から復活した。学生にとっては、児童の様子や先生方の仕事を理解できる絶好の機会となっている。一方、受け入れ先の学校からは、学生の真摯に向き合う姿勢が高く評価されているとともに、人手不足の学校におけるボランティア的役割も担っており、大変好評である。

なお、このインターンシップの日程調整は、本学の担当者と小学校長で毎年行っている。

3. 「サッポロさとらんど」における栄養教育に係る発表・展示

この発表・展示は、学生が学外での発表体験と地域ボランティア体験をすることを目的として、「サッポロさとらんど」で開催される「新米・新そばフェア」の会場で3年次生対象に2022年度から実施している（教職総合演習（選択科目）の授業内）。学生は、展示パネルを作成し、それを活用した15分間の発表を会場内で行い、来場客とのやりとりも経験できることから、食育の楽しさや、コミュニケーション力を高めることが可能となる。

また、この催しは、以前は「新米フェア」と呼ばれ、コロナ感染症の影響もあり、名称変更となった。2012～2019年度は、3・4年次生が参加していたが、シラバス変更に伴い、3年次生だけが参加対象となった。

なお、この発表・展示における日程調整は、本学の担当者と会場担当者として、毎年行っている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

(1) 本学の教職課程教育の目的・目標については、2017 年度に検討して、2018 年度に公表した。その視点は、本学のディプロマ・ポリシー（卒業・学位授与の方針）及びカリキュラムポリシー（教育課程・編成の方針）、さらには、中央教育審議会答申等で示された、教員に必要な資質能力を加えた 8 項目とした。これらは、学生・教職員に「教職課程履修の手引」で周知するとともに、本学のホームページでも公開している（資料 1-1-1、資料 1-1-2、資料 1-1-5）。

(2) 育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教育課程の目的・目標を共有し、教育課程教育を計画的に実施するために、次の 3 つの方策がある。

1) 毎月定期的で開催している「教職課程委員会」（本学における教職課程の実施・運営機関）において、協議・情報共有等を行う（資料 1-1-3）。

2) 教職課程委員会規程で出席を義務化した「教職課程 F D 研修会」へ教職員が毎年参加することにより、教職課程に関わる最新の情報等を学ぶ（資料 1-1-3）。

2022 年度「教職課程 F D 研修会」の状況は、次の通りである（資料 1-1-4）。

・実施日時：2023 年 1 月 24 日 13：10～14：40

・演題：「特別な支援を必要とする児童生徒・学生への対応と合理的配慮」

・講師：星槎道都大学社会福祉学部社会福祉学科 学科長・特任教授 藤根 収 氏

・出席者：43 名（教職課程に関わる専任教員・非常勤講師・職員 8 名、学生 4 名、
その他の本学教職員 31 名）

なお、この研修会は学生及び教職課程以外の教員の参加も可能としており、年度毎にテーマを変えて研修を行っている。

3) 教職課程の内部質保証に係る自己点検・評価（学生・教職員）を 2019 年度から実施しており、その結果を教職課程委員会で分析し学長に報告するとともに、自己点検・評価結果については、本学のホームページで公開している（資料 1-1-3、資料 1-1-5、データ 1、データ 2）。

(3) 教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、ディプロマ・ポリシー（卒業・学位授与の方針）を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っているかについては、次の 2 つの方策がある。

1) 学修成果の可視化については、ディプロマ・ポリシーに基づく栄養学科のカリキュラム・ルー

ブリックが明示されるとともに、構成図やカリキュラム・マップも示しているとともに、学生に履修要項で説明・明示している（資料 1-1-2）。

2) 教職課程における学修成果の可視化については、1)に加えて、教職課程履修の手引において、学年別と目標別の身に付けるべき内容を明示・説明している（資料 1-1-1）。さらに、教職課程の自己点検・評価票における「教育課程の編成・実施と学修成果」に 10 項目を設定し、学生が自己点検・評価することにより、自分の状況や成長を認識・確認できるようにしている（データ 1）。

〔長所・特色〕

本学では、看護栄養学部栄養学科の学生に「栄養教諭一種免許状」を取得させるための全学組織として教職課程委員会が設置され、教職課程の運営・実施を担当している。栄養学科だけの教職課程であるため、委員数は 5 名と少ないものの、機動性を生かした円滑な運営がなされている（資料 1-1-3）。

また、教職課程委員会主催の F D 研修会は、教職課程の担当者だけでなく、学生や全学の教職員の参加も可能としており、教職課程の目的・目標の理解や、学生指導の理解促進にも効果的に機能しており、内部質保証の充実にも寄与している（資料 1-1-4）。

さらに、卒業後に栄養教諭として勤務する学生の割合も過去 5 年間では、栄養教諭一種免許状取得者の 33%であり、北海道内の栄養教諭養成課程では最も高い就職率となっている。加えて、2023 年度採用分から新設された札幌市の栄養教諭の占有率も 67%となり、学生の努力や教職員の指導の効果が高かったと判断している（データ 3）。

〔取り組み上の課題〕

(1) 本学における教職課程の履修は、あくまでも学生の希望による。2020 年度と 2021 年度は、コロナ禍の関係や学校教員の長時間労働の影響もあって、1 年次生の履修者が過去 10 年間で最低となった（データ 3）。2022 年度は 21 名と回復傾向にあったものの、栄養教諭の魅力や食育の大切さなどの仕事内容の重要性を、ガイダンス等を通して、今後とも学生にしっかりと伝える必要がある。

(2) 教職課程の内部質保証に係る自己点検・評価票は、毎年、その状況を分析し活用している。しかし、4 年が経過したことから、より時代変化を反映した内容にする必要があると考えている。次年度は、その評価項目の見直しの検討が必要である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1-1-1：天使大学看護栄養学部教職課程履修の手引、2022 年度、pp.1-3
- ・資料 1-1-2：天使大学看護栄養学部履修要項、2022 年度、pp. I-32-41

- ・資料 1-1-3 : 天使大学教職課程委員会規程、pp. 22-39-22-40
- ・資料 1-1-4 : 天使大学活動報告会資料、2022 年度、pp. 10-14
- ・資料 1-1-5 : 天使大学教職課程のホームページ
(<https://www.tenshi.ac.jp/collegegraduate/gakubu/eiyou/teach/>)
- ・データ 1 : 2019~2022 年度天使大学教職課程自己点検・評価票 (学生用) 集計結果
- ・データ 2 : 2019~2022 年度天使大学教職課程自己点検・評価票 (教職員用) 集計結果
- ・データ 3 : 天使大学看護栄養学部栄養学科における教職課程履修者の教員採用試験等の状況 (部内扱い)

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

(1) 本学の教職課程では法令遵守に基づく組織的運営をしっかりと行っている。当然のことながら、教育職員免許法施行規則に従い、教職の基礎的理解に関する科目や、道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目を開講している。この担当者は、専任教員 (教授) 2 名と非常勤講師 2 名の計 4 名を配置しており、いずれも「教職課程コアカリキュラム」を踏まえた授業を適切に行っている。

また、栄養に係る教育に関する科目は、栄養学科の 2 名の教員 (専任と非常勤) が担当するとともに、教育実践に関する科目では、教職の専任教員 2 名と栄養学科の専任教員 3 名の計 5 名が担当している。加えて、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目については、6 名の教員が担当し、学生の履修を適切に行っていることから、実践的指導力の高い教員を養成する組織として十分機能していると判断している (資料 1-2-1)。

なお、教職課程科目におけるシラバスチェックは教務委員が厳格に行っており、「教職課程コアカリキュラム」を遵守した内容であることを十分に確認している。

(2) 本学の教職課程では体験的で実践的な教育を推進している。そのため、「北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場」と連携して、1 年次生を対象にした農作物の収穫体験や搾乳体験を実施している。これらの体験活動は、初めて経験する学生がほとんどであり、学生レポートの記述内容から、大きな感動とともに、農業についての認識や理解をしっかりと深めさせることができている。

また、2 年次生を対象に、近隣の「札幌市立小学校 3 校 (北光小・美香保小・新琴似小)」と連携して、夏季休業中の 2 週間を利用した 5 日間の「学校インターンシップ (教育課程外)」を実施している。2022 年度のインターンシップにおける参加学生 6 名の満足度は 100% と、昨年度の 91% と比較して大変に高かった (資料 1-2-2)。

さらに、3年次生を対象に、「サッポロさとらんど」と連携して、栄養教育の実践力を高め、ボランティア活動を体験させるために、栄養教育の発表・展示を実施している。2022年度は、10月16日(日)に発表会、展示は10月15日(土)～16日(日)に行った。学生は「新米・新そばフェア」の会場で、作成した展示パネルを活用した15分間の発表を行い、来場客とのやりとりを経験しながら、食育の楽しさや、コミュニケーション力を高めることを実践できた(資料1-2-3)。

- (3) 組織的課題を明らかにして課題を克服することや、教職課程の資質向上のために、教職課程委員会の組織を有効に機能させている。学生支援の充実を図るため、前述した「教職課程自己点検・評価(学生用・教職員用)」を実施し評価結果を分析・公表するとともに、教職課程FD研修会を開催し、組織力の向上や教職員の資質能力の向上を図っている(資料1-2-4)。

〔長所・特色〕

本学の教職課程は、看護栄養学部栄養学科だけの学生を対象にしているため、機動的な運営と、きめ細やかな指導が実施できる長所と特色を有している。機動的な運営に関しては、栄養教諭養成課程では開設の義務がない「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」について、2021年度に教育課程の改正を行い、2023年度の2年次生から「教育におけるICT活用論」の履修を必修化した。加えて、4年次生の「教職実践演習」においては、2020年度から「ICTを活用した栄養教育」を含めており、この学習効果の満足度が高かったことも分かっている(資料1-2-5)。

また、きめ細やかな指導では、入学時のオリエンテーションから始まり、履修カルテの複数回の記入説明会や、記入状況の確認・修正の指導(1～4年次)、学生への丁寧な相談・回答、3年次における面接指導、及び3～4年次における計12日間の教員採用対策ゼミを開催し、学生支援の充実を図っている(資料1-2-3)。

さらに、教職課程の目標7に掲げている「ボランティア活動や体験活動に積極的に参加」を意識して、学生会活動やサークル活動、NPO活動によるボランティア活動に参加する学生も多く、その効果の一つが教員採用試験の合格率の高さにも反映していると考えている(資料1-2-6)。前述したように、近隣にある「北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場」、「札幌市立小学校3校(北光小・美香保小・新琴似小)」、「サッポロさとらんど」との連携による体験活動の効果も大きいことから、これらを通して、主体的・積極的に連携・協働意識の高い栄養教諭を養成することができていると考えている。

〔取り組み上の課題〕

課題としては、2023年度の教職課程委員会の活動目標として、次の5点を掲げている(資料1-2-6)。これらを確実に実施することが、組織としての取り組み上の課題である。

1. 栄養教諭養成のための教育を円滑に実施する。
 - ・教職課程委員会業務の円滑な実施と分担の均一化を図る。
2. 科目等履修生の栄養教諭免許状取得を支援する。
 - ・科目等履修生への指導・支援を強化する。
3. 外部との連携による教職課程のPRと地域貢献を行う。
 - ・教職総合演習(3年次生対象)において、地域行事に参加し大学のPRと地域の活性化に貢献する。
4. 教職課程の自己点検・評価、FD研修会等を確実に実施する。
 - ・教職課程FD研修会を実施
 - ・教職課程履修学生を対象とした自己点検評価アンケートを実施する。
 - ・教職課程科目担当教員および事務担当者を対象として自己点検評価を実施する。
 - ・自己点検・評価報告書を作成して教職課程の質保証・向上に役立てるとともに、全国私立大学教職課程協会の様式に基づき、自己点検評価報告書を作成し認証評価を受け、結果をホームページに公表する。
5. ICT活用能力の向上を図るため、授業におけるICT活用を推進する。
 - ・ICTに関する新設科目について、2023年度から実施する。
 - ・ICT活用能力を高めるため、関係科目における授業を工夫する。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：天使大学看護栄養学部教職課程履修の手引、2022年度、pp.4-5
- ・資料1-2-2：2022年度学校インターンシップ実施報告書、pp.8
- ・資料1-2-3：2022年度教職課程委員会の行事等一覧、2022年度
- ・資料1-2-4：天使大学教職課程委員会規程、pp.22-39-22-40
- ・資料1-2-5：天使大学紀要(22)1、2022年、pp.57-69
- ・資料1-2-6：天使大学活動報告会資料、2022年度、pp.10-14

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

[現状説明]

- (1) 本学では、学生募集パンフレット「TENSHI COLLEGE」において、アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)を明示するとともに、教職課程についても、採用試験合格者数や履修学生のインタビューを掲載し、資格取得の意義や魅力を十分に伝えている(資料2-1-1)

- (2) 教職課程委員会では、栄養学科の1年次を対象に、入学当初に栄養教諭教職ガイダンスを行い、教職課程科目や栄養教諭一種免許状の取得状況等の説明を行い、さらに、必要に応じて履修相談にも対応している。また、1年次最初の教職課程科目である教職概論の第1回では、教職課程履修の手引（資料2-1-2）を配布し、教職課程履修規程で示してある必要修得単位数や学ぶ心構え等を解説した上で、強い意志と覚悟を持って履修を開始すべきとの指導を行っている。さらに、履修を継続するための基準についても、教職課程履修規程を読んでしっかり確認するよう指導している。
- (3) 「履修カルテ」（資料2-1-3）については、教職概論の最終回の授業時に配布し、記入の仕方等を説明した上で、必要な事項を記入させるとともに、毎学年末に記入状況を点検し、不備があれば修正指導を行っている。また、「履修カルテ」による学生の自己評価は、2年・3年・4年7月・4年1月の4回実施する。そして、4年次の「教職実践演習」において、「履修カルテ」を活用した今後の課題設定や授業を通して向上すべき資質・能力、その具体的な実践目標の設定を行うとともに、授業の最終回において自己評価を行い、省察を深めている。

さらに、3年次に「履修カルテ」を活用した面接指導も実施し、4年次に向けての意識高揚を図っている（資料2-1-4）。

- (4) 本学では、教職課程は栄養学科入学生の選択制となっている。教職課程において、ディプロマ・ポリシー（卒業・学位授与の方針）と教職課程の目標は関連性が強く、また、免許取得のための教職課程の必要履修単位数は、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目を除いても、25単位以上の履修が必要となっている。そのため、1年次で教職課程を履修する学生は、この5年間平均で21名（入学定員90名の23%）であり、適切な人数になっていると判断できる。しかし、2020・2021年度の1年次生は、13～15人と、過去10年間で最低水準となった。このことに対しては、教職課程委員会として、強い危機意識を持たざるを得ない（データ3）。

〔長所・特色〕

本学の教職課程においては、学生募集パンフレットや、天使大学のホームページ、教員の出前授業、オープンキャンパス等の大学説明会を活用しながら、学生確保に努めている。

また、北海道内で栄養教諭として働く卒業生も多いことから、教職課程は、栄養学科入学の魅力の一つにもなっている。このこともあり、現時点では栄養学科の90名の定員が毎年、満たされている現状がある。

栄養教諭の育成については、教職課程委員会が、ガイダンスや説明会、教員採用試験対策等を充実する取り組みを行っている。当然のことながら、教職課程委員会は国の基準に基づく適切な教育課程の運営・実施を行うとともに、教職課程委員会規程に基づき内部質保証の充実を図っている。

さらに、外部との連携も強化しながら、コミュニケーション力や実践的指導力の高い栄養教諭の教員養成を行っている。

[取り組み上の課題]

- (1) 学生の確保における課題としては、今後の少子化に対応した本学全体の魅力向上体策の検討・実施が求められている。全国の私立大学においては、定員に満たない学部・学科も増えている現状の中、本学としても学内体制を整備し、学生確保に、一層、努める必要がある。
- (2) 学生の育成における課題としては、近年、人事等の関係で、教職課程担当の教員が変更される状況がある。教職課程委員会として、さらに共通理解と共同意識を向上させる教職課程の運営が必要になっており、新規教員の前向きな発想を生かす委員会運営が必要と考える。
- (3) 教職課程の内部質保証に係る自己点検・評価票は、毎年、その状況を分析し活用している。しかし、4年が経過したことから、より時代変化を反映した内容にする必要がある。学生育成の教育の質の向上を図るために、次年度は、その評価項目の見直しの検討が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1 : TENSHI COLLEGE 2023、2022 年度、pp. 6、27—30、41—42
- ・資料 2-1-2 : 天使大学看護栄養学部教職課程履修の手引、2022 年度、pp. 1—5
- ・資料 2-1-3 : 2019～2022 年度入学生教職課程履修カルテ、pp. 1—19
- ・資料 2-1-4 : 2022 年度教職課程委員会の行事等一覧、2022 年度
- ・資料 2-1-5 : 天使大学教職課程のホームページ

(<https://www.tenshi.ac.jp/collegegraduate/gakubu/eiyou/teach/>)

- ・データ 3 : 天使大学看護栄養学部栄養学科における教職課程履修者の教員採用試験等の状況 (部内扱い)

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

[現状説明]

- (1) 本学では、前述したように、教職課程は選択制であり、1 年次入学当初にガイダンスや履修指導を行うとともに、履修相談にも対応している。これらの中で、教職課程履修規程で示した必要修得単位数や学ぶ心構え等を解説した上で、教職に就こうとする意欲を喚起するとともに、強い意志と覚悟を持って履修を開始すべきとの指導を行っている(資料 2-2-1、資料 2-2-2、資料 2-2-3)。
- (2) 学生のニーズや適性の把握に基づくキャリア支援の実施については、次のとおりである。1 年次より栄養学科の支援教員が面接によるアドバイスや不安の聞き取りと解消に努めるとともに、教職課程の教員も積極的に学生に声掛けし親切的な対応を行い、何時でも相談できる体制を作って

- いる。また、3年次生に対しては、教職課程委員会の教員が「履修カルテ」を活用して4年次の進路相談や不安等の解消に役立つ面接を組織的に行っている（資料2-2-4）。
- (3) 教員に就くための適切な各種情報の提供については、次のとおりである。1年次より採用試験の問題を毎年配付するとともに、問題分析を行い、学生にフィードバックしている。また、4年次生の採用状況等を授業の中で情報提供し、モチベーションを高めるようにしている。さらに、就職委員会と連携して3年次の12月には教員採用ガイダンスⅠ、4年次の4月には教員採用ガイダンスⅡを、外部講師を招聘して実施している（資料2-2-3）。
- (4) 教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫については、次のとおりである。3年次の2月に「春期ゼミ」（専任教員担当）を4日間、4年次の5月に「1次直前ゼミ」（専任教員担当）を3日間、7～8月に「2次直前ゼミ」（専任教員＋外部講師担当）を5日間、合計12日間実施している。特に「2次直前ゼミ」は面接対策として、教職課程委員会の教員以外に、栄養学科、教養教育科、外部講師の協力を得ながら実施している（資料2-2-3）。
- (5) キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等の連携については、次のとおりである。3・4年次の講義の中で、卒業生5人（各1回）による特別講義を実施している。4年次生の「栄養教育事前事後指導」が1回、「教職実践演習」が2回、3年次生の「教職総合演習」が2回である。また、地域の人材活用では、学生が2年次に実施する「学校インターンシップ」において、当該学校の先生方から指導を受けている。さらに、学生も参加可能な教職課程のFD研修会を1年に1回開催している。これまでの講師は、北海道教育委員会、札幌市教育委員会及び大学教授の方であり、学生にとっては絶好の学習の機会となっている（資料2-2-3）。

〔長所・特色〕

本学の学生に対するキャリア支援は、専任教員、外部講師、卒業生等を活用しながら、就職委員会とも連携して、大きな成果を上げていることが特色である。その結果、北海道・札幌市教員採用試験における本学の2次合格者（栄養教諭）の占有率は、2017～2021年度の5年間の平均値が36.7%であり、北海道内で第1位の合格率を誇っている。また、2022年度は、北海道と札幌市の教員採用試験が分離した関係で、北海道の受験者が少なくなったが合格率は66.7%であった。一方、新設された札幌市では、合格率は33.3%だったものの、占有率は66.7%と好成績を収めた（資料2-2-5、データ3）。

栄養学科においては、学校実習以外に、病院・保健所・介護施設等での実習があり、学生の体験を踏まえた職業選択が可能となっていることが本学の長所でもある。このことから、教員採用試験不合格者や未受験者も、教職課程での学習を生かして、保育園や幼稚園に就職するほか、コミュニ

ケーション力を必要とする栄養関連の職種に就職する学生も多い。

〔取り組み上の課題〕

- (1) 本学の学生に対するキャリア支援の課題としては、栄養教諭の魅力や使命感をしっかりと伝えて教員採用試験の受験者を増やすことである。本学の教職課程の学生は、札幌市での就職を希望する学生も多く、企業・病院を志望する学生もいる。2022年度は栄養教諭の採用試験が北海道と札幌市で分離した関係で、札幌市の受験者が、本学採用試験受験者9名中6名と多かったため、本学の合格者に占める占有率は66.7%と誇るべき状況ではあったが、合格率は33.3%となったことは、前述したとおりである（データ3）。採用試験を受験するよう指導はしているものの、受験の意思は最終的に学生に委ねられている現状もある。今後は、北海道も含めて他府県の採用試験を積極的に受験するよう指導する必要がある。
- (2) 2024年度から教員採用試験の早期開始が議論されている現状にある。このことを踏まえて、2023年度においては、キャリア支援のための学内体制の再検討が喫緊の課題である。具体的には、栄養教育実習の時期や、教員採用試験対策の時期・内容についての検討が必要である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料2-2-1：2022年度栄養教諭教職ガイダンス資料、2022年度
- ・資料2-2-2：天使大学看護栄養学部教職課程履修の手引、2022年度、pp.4-5
- ・資料2-2-3：2022年度教職課程委員会の行事等一覧、2022年度
- ・資料2-2-4：2019～2022年度入学生教職課程履修カルテ、pp.1-19
- ・資料2-2-5：天使大学活動報告会資料、2022年度、pp.10-14
- ・データ3：天使大学看護栄養学部栄養学科における教職課程履修者の教員採用試験等の状況（部内扱い）

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

- (1) 教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っているかについては、履修規程でキャップ制を踏まえた修得単位数の上限を設けるとともに、前述したように、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を着実にしている（資料3-1-1）。
- (2) 学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等の系統性の確保を図りなが

- ら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成しているかについては、その通りしっかり編成するとともに、カリキュラムマップ・構成図により、学生が履修の階層性を容易に理解できるよう工夫している（資料3-1-1）。
- (3) 教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされているかについては、北海道・札幌市の教員育成指標（栄養教諭版）を踏まえ、その要素を含む教職課程の授業を実施している（資料3-1-2、資料3-1-3）。また、履修カルテの自己評価シートにおいても、これらの指標に関連した項目があり、学生は、自分の成長の状況を把握できるようになっている（資料3-1-4）。
- (4) 今日の学校におけるICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が十分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われているかについては、適切に指導している。データの科学（1年後期）、教育方法論（2年前期）、教職実践演習（4年前後期）で、しっかり対応・実施している。また、栄養教諭養成課程では開設の義務がない「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」について、2021年度に教育課程の改正を行い、2023年度の2年次生から「教育におけるICT活用論」として履修を必修化している（資料3-1-5）。
- (5) アクティブ・ラーニングやグループワークを促す工夫による課題発見や課題解決力の力量の育成については、教職課程の全部の科目でアクティブ・ラーニングを行っており、課題発見や課題解決力の向上に大いに効果を上げている（資料3-1-6）。
- (6) 教職課程シラバスにおいて、各科目の学習内容や評価方法等を明確にしているかについては、コアカリキュラムの到達目標に対応した学習内容をシラバスに明記するとともに、評価方法等を明確化し学生が理解しやすいようにしている（資料3-1-6）。
- (7) 教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っているかについては、教職課程履修規程に履修要件を明記するとともに、3年次の進級判定時に教職課程委員会として実習判定を行っている（資料3-1-5）。また、4年次の実習にあたり、3年次の春休みの事前指導や4年次の栄養教育指導事前事後指導において、丁寧で適切な指導を行っており、受け入れ先からの学生の評価は高評価となっている。
- (8) 「履修カルテ」等を用いて、学生の履修状況に応じたきめ細やかな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を生かしているかについては、前述したように「履修カルテ」の1～4年次の作成・点検指導や、それに基づく3年次の面接指導をしっかり実施している。また、「教職実践演習」における「履修カルテ」を活用した指導の中で、自分の蓄積データを活用して学生自身が課題設定や目標設定を行い、省察するプロセスを実施・指導している（資料3-1-4）。

〔長所・特色〕

本学の教職課程カリキュラムの編成・実施においては、管理栄養士養成機関である栄養学科の専門科目を生かした専門性の向上と、その特色を生かした教職課程カリキュラムの編成・実施が長所・特色となっている。

また、教職課程カリキュラムの編成においては、法令に確実に従うとともに、実施においては、本学独自の「自己点検・評価票（学生用・教職員用）」を用いて点検する体制を構築して、常に見直しと改善に努めている。このことは、栄養教諭の職務である、食に関する指導と給食管理の能力を高めるとともに、コミュニケーション力に優れ、連携・協働能力の高い栄養教諭を養成できていると考えている。

〔取り組み上の課題〕

(1) 教職課程カリキュラムの編成・実施の課題としては、2019年度からスタートした教職課程の新教育課程が4年を経過したことから、教職課程自己点検・評価票（データ1、データ2）を活用しながら、実施上の問題点・課題の洗い出し・検討が必要と考えている。そのために、教職課程委員会の機能を十分発揮させたい。

また、全学的にも学部カリキュラム委員会が2023年度から発足し、これまでのカリキュラムの課題や問題点を議論するので、全学的な視点からの検討の状況も参考にして改善に努めたい。

(2) 教職課程科目の実施に関わって、教職課程を担当する教員確保の問題がある。2022年度においては、2023年度からの教職課程の基礎科目を担う専任教員を確保できたが、同様の問題が2024年度に向けて必要となっている。優秀で適切な人材をしっかりと確保することが不可欠である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料3-1-1：天使大学看護栄養学部履修要項、2022年度、pp. I-32—53、II-12
- ・資料3-1-2：北海道における教員育成指標、2017年度、pp. 21—22
- ・資料3-1-3：札幌市教員育成指標、2022年度、pp. 11—22
- ・資料3-1-4：2019～2022年度入学生教職課程履修カルテ、pp. 17—19
- ・資料3-1-5：天使大学看護栄養学部教職課程履修の手引、2022年度、pp. 4—7
- ・資料3-1-6：天使大学看護栄養学部授業概要、2022年度、pp. 395—444
- ・データ1：2019～2022年度天使大学教職課程自己点検・評価票（学生用）集計結果
- ・データ2：2019～2022年度天使大学教職課程自己点検・評価票（教職員用）集計結果

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

(1) 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定しているかについては、

(2) で後述する体験活動や、専門の栄養学科における病院・保健所・介護施設等の実習、さらには教職課程における栄養教育実習や学校インターンシップなどにより実践的指導力を育成する機会をしっかりと設定している(資料3-2-1、資料3-2-2)。

(2) 様々な体験活動(介護等体験、ボランティア、インターンシップ等)とその振り返りの機会については、前述したように、1年次の農場体験、2年次の学校インターンシップ、3年次の栄養教育ボランティアと給食センター見学において、レポート作成や報告書作成を通して、振り返りの機会を学生に十分に確保するとともに、報告書については添削指導も行っている(資料3-2-3)。

(3) 地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けているかについては、教職課程科目において、最新の事情等を紹介するなどの授業を行うとともに、前述した「学校インターンシップ」や「教職課程FD研修会」への参加を学生に推奨している。加えて、3・4年次の授業において現場の栄養教諭による特別講義を5回実施している。これらのことから、教育実践の最新の事情を学ぶ機会は十分確保できていると判断している(資料3-2-1)。

(4) 大学と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っているかは、以下の状況である。

- 1) 栄養教育実習(4年次生)において、札幌市教育委員会と札幌市小学校長会との組織的な連携協力体制
- 2) 教職課程FD研修会において、北海道教育委員会や札幌市教育委員会の担当者を講師として招聘していることによる、連携協力体制
- 3) 農業体験実習(1年次生)において、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場との連携協力体制
- 4) 学校インターンシップ(2年次生)の実施において、近隣3小学校との連携協力体制
- 5) 栄養教育に係る発表・展示のボランティア活動(3年次生)において、サッポロさとらんどとの連携協力体制
- 6) 教職総合演習(3年次生)の施設見学において、石狩市学校給食センターとの連携協力体制
- 7) 教職概論(1年次生)の学校見学において、札幌市立北光小学校との連携協力体制

(5) 本学の教職課程委員会と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るための連携を図っているかについては、(4)で記述したように栄養教育実習の実施に当たっては、札幌市小学校長会が本学学生の実習配属校を決定した上で、本学教員が学生の実習に支障の無い状況を判断して割り振りを行っている。実習時は、当該校へ本学の教員が訪問して研究授業を見学するとともに、校長先生等と懇談して学生の状況を把握したり、校長会から12月に提供される実施校のアンケート結

果を活用して、次年度の教育実習の改善に生かしている（資料 3-2-4）。

〔長所・特色〕

本学における実践的指導力の育成と地域との連携においては、地域との連携体制が十分整っているのが長所・特色となっている。授業科目における地域との連携による体験活動やボランティア活動だけでなく、課外活動における体験活動やインターンシップの機会を学生に提供しており、学生の主体的な学びをサポートしている。

また、ボランティア活動等への参加を学生に奨励していることも、学生の教員としての資質・能力を高めるための大きな力となっている。栄養教諭に採用される学生の多くは、サークル活動やNPO活動で、農業体験や児童・生徒への栄養教育を体験しており、学生自身の成長と大きな自信に繋がっている。

〔取り組み上の課題〕

- (1) 実践的指導力育成と地域との連携の課題であるが、前述したようにコロナ感染症の影響が現時点でも残っており、以前よりは対面で行う活動が制限されている。ポストコロナを見据えて、より実践的指導力の高い教員の養成を目指すために、更なる連携方策を模索することが、今後の課題である。
- (2) 教育実習に関しては、教育実習反省アンケートの記述内容からも、教育実習日誌における指導教員の負担軽減を図る視点から、指導教員の記述する部分を軽減するよう日誌の記述方法を改善する必要がある（資料 3-2-4）。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 3-2-1：2022 年度教職課程委員会の行事等一覧、2022 年度
- ・資料 3-2-2：天使大学看護栄養学部履修要項、2022 年度、pp. I—36
- ・資料 3-2-3：2022 年度学校インターンシップ実施報告書、2022 年度、pp. 1—8
- ・資料 3-2-4：令和 5 年度教育実習に係る説明会資料（札幌市小学校長会）、令和 4 年度教育実習反省アンケート集約、2022 年度、pp. 1—8

Ⅲ. 総合評価

本学における教職課程自己点検評価は、3つの基準領域（基準領域1：教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み、基準領域2：学生の確保・育成・キャリア支援、基準領域3：適切な教職課程カリキュラム）とも適切に運営・実施されていると評価した。

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本学では、次の作成プロセスにより、本報告書を作成した。

- (1) 2019年度に、教職課程委員会規程を改正し、教職課程の内部質保証に係る自己点検・評価の実施、公表及び報告に関する事項と、FD研修会等の研修の実施に関する事項を新設・追加するとともに、2020年1月より施行した。これは、教職課程を統括する教職課程委員会が原案を作成し、全学的な議論を経て決定したものである。また、教職課程委員会としての自己点検・評価の実施とFD研修会等の実施に関する申し合わせも整備した。

この背景としては、2015年12月の中央教育審議会答申や2019年11月の教学マネジメント指針（案）の内容を踏まえて、学内体制を整備したことによる。

- (2) 自己点検・評価の実施と公表及び報告、並びに教職課程のFD研修会の開催は、2019年度末に開始され、2022年度末まで順調に実施しており、これらの結果は、本報告書の作成に活用することができた。
- (3) 「2022年度教職課程自己点検評価報告書」については、本学の関係資料を詳細に検討し、教職課程を主管する教職課程委員会が原案を作成するとともに、教職課程委員会及び栄養学科長との協議・点検を経て完成させた。また、2021年度の本報告書を「一般社団法人全国私立大学教職課程協会」に提出し、その中間相談結果の内容に基づき、記述内容の改善に努めた。

さらに、公表に先んじる手順として、内容について学長と確定に向けた報告・協議を行い、承認を得た。今後は、本報告書を「一般社団法人全国私立大学教職課程協会」に提出することとした。

V 現況基礎データ一覧

2022 (令和4) 年5月1日現在

法人名 学校法人 天使学園					
大学・学部名 天使大学・看護栄養学部					
学科・コース名 栄養学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					計190名 うち栄養学科95名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					計91名 (就職希望者の100%)
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					23名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					5名
④のうち、正規採用者数					3名
④のうち、臨時的任用者数					2名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 (非常勤講師)
教員数 (教職課程)	2	1	2	1	3
相談員・支援員など専門職員数 1					